

1. ことば か おほ み言葉を書いて覚えましょう。

列王下2・9



2. エリシャはどのような人だったでしょう。○をしよう。

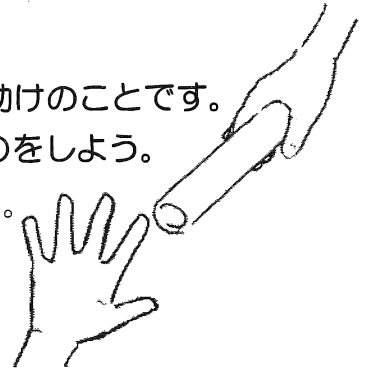
- ①王様    ②よげんしゃ預言者    ③リレーの選手    ④くうそうれいはい偶像礼拝とたたかった人

3. エリシャから信仰のバトンタッチをされたのはだれでしょう。○をしよう。

- ①アハブ王  
②エリシャ  
③エリシャの子ども

4. エリシャがエリシャに願った「れい霊の二つの分」は、聖霊の助けのことです。なぜ、エリシャはそれが必要だったのでしょうか。○をしよう。

- ①みんながおどろくような人になって、そんけい尊敬されたいから。  
②のんびりと畑をたがやして楽しく暮らしたいから。  
③エリシャのように神様の働きをしたいから。



5. エリシャの願いがかなったことは、どんなことからわかりましたか。

[ ]

6. あなたも神様によろこばれる生活のために、聖霊の助けを祈りませんか。

はい ・ いいえ



神様、わたしも信仰のバトンをしっかりと受けて、あなたに喜ばれるクリスチャンになりますように。聖霊の助けをお願いします。・・・アーメン。

1. ことば か おぼ み言葉を書いて覚えましょう。

イザヤ 42・1

2. イザヤはどのような人だったでしょうか。○をしよう。

- ①神様に罪をゆるされた    ②よげんしゃ預言者    ③人のどれい    ④いばり屋

3. イザヤの預言した「主のしもべ」にあてはまるものに○をしよう。

- ①弱っている人を助け、立たせる  
②強い人の味方  
③物静か  
④うるさい  
⑤決してくじけない



4. 「主のしもべ」とはだれのことでしょうか。

[ ]

5. 神様に罪をゆるされた人は、イエス様のように主のしもべになることができます。あなたも、神様の愛をあらわしていきたいと思いませんか。

[ ]

いの  
お祈り



神様、わたしの罪をイエス様がゆるしてくださることを感謝します。わたしもイエス様のように、主のしもべとしてください。・・・アーメン。

1. <sup>ことば</sup>み言葉<sup>か</sup>を書いて覚え<sup>おぼ</sup>ましょう。

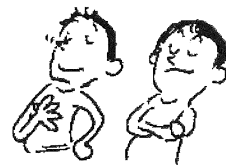
ミカ 6・8 b

2. 聖書の内容にあてはまるように、( ) の中の正しいほうに○をしよう。

神様はイスラエルの人々を ( いつも・たまに ) 助けてきた。

しかし人々は神様の言葉を ( 聞こうとしなかった・喜んで聞いた ) 。

人々の心の中は、( 感謝・高ぶり ) でいっぱいだった。



3. ミカの言葉を聞いた人々がささげようとしたものを、神様は喜ばれません  
でした。その正しい理由に○をしよう。

①ささげものがあまり良いものではなかったから。

②人々の手がどろで汚れていたから。

③ささげる人々の心が悪かったから。

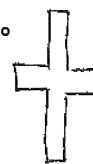
4. 神様が、一番喜ばれることは何でしょうか。○をしよう。

①おこづかいを全部<sup>けんきん</sup>献金すること。

②宿題などしないで、聖書をずっと読むこと。

③へりくだった心で、いつも神様と生活すること。

④自分が神様に愛されていることを、友だちにいばること。



<sup>いの</sup>お祈り



神様、これからも高ぶらないで、あなたに<sup>しんらい</sup>信頼します。いつもわたしといっ  
しょにいてください。・・・アーメン。

1. ことば か おぼ み言葉を書いて覚えましょう。

エレミヤ 29・11

2. バビロンに連れて行かれた人たちに、エレミヤはどういう<sup>よげん</sup>預言をしましたか。○をしよう。

- ①すぐにユダに帰れるから心配しないように。
- ②70年たったら、あなたたちはユダに帰ることができます。
- ③いつユダに帰れるかは神様だけがご存じだから、何も考えないように。



3. エレミヤの預言を聞いた人たちは、どう思ったでしょう。○をしよう。

- ①そんなに先ではこまる。すぐに帰りたいのに。
- ②70年なんてあつという間だ。今から楽しみだ。
- ③もうユダに帰らなくてもいい。ずっとバビロンにいたい。



4. 神様は、人々に何を期待していらっしゃったでしょう。

( )

5. 人々の願いと神様のご計画はちがいました。あなたが願うとおりに神様がしてくださるのと、神様のご計画しておられるようにしてくださるのと、どちらの方が素晴らしいと思いますか。○でかこみましょう。

自分が願うとおり ・ 神様のご計画のとおり

いの  
お祈り



神様、わたしの願いではなく、神様のご計画のとおりにしてください。いつでも神様に信頼しますから、心に安心をあたえてください。・・・アーメン。

1. <sup>ことば</sup>み言葉<sup>か</sup>を書いて覚え<sup>おぼ</sup>ましょう。

エゼキエル 47・9

2. エゼキエルは、どんなまぼろしをみたのでしょうか。下から言葉を選びましょう。

神殿から（ ）が流れて、（ ）となる。その流れはだんだんと（ ）になっていき、（ ）に流れこんでいく。

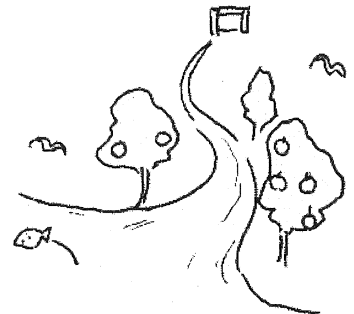
水 雨水 川 豊かに まずしく 死海 プール

3. この川が流れるところの生き物は、どうなっていましたか。○をしよう。

- ①みんな弱っていた。
- ②みんな元気に生きていた。
- ③みんなじっとしていた。

4. この川のまぼろしは何をあらわしているのでしょうか。○をしよう。

- ①教会で飲む水はとてもおいしい。
- ②ふかい川には気をつけるように。
- ③聖霊の豊かな働きが、すべてのものを生かす。



5. このまぼろしが教えてくれるように、聖霊が助けてくださったら、あなたはどうなるでしょう。○をしよう。

- ① 何だかがっかりする
- ② いつもよりつかれる
- ③ いつも生き生きとなる

いの  
お祈り



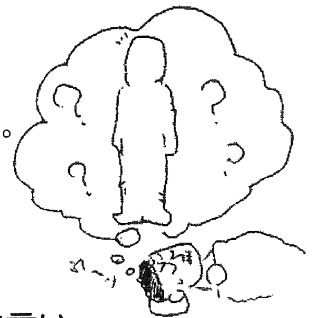
神様、豊かな川の流れのような聖霊の助けをありがとうございます。わたしのことも助けて、いつも生き生きとさせてください。・・・アーメン。

1. <sup>ことば</sup>み言葉を<sup>か</sup>書いて<sup>おぼ</sup>覚えましょう。

ダニエル 2・28

2. ダニエルにあてはまるものに、○をしよう。

- ①神様を信じていた。
- ②あまり勉強は得意でなかった。
- ③その場の空気を読んで、人にさからわないようにしていた。
- ④神様から知恵をあたえられていた。
- ⑤バビロンに連れてこられて、王に仕えていた。



3. ダニエルは、ネブカデネザル王の見た夢の意味を、どのように言いましたか。○をしよう。

- ①王よ、夢のとおりに、りっぱな像をつくりなさい。
- ②どんなに力がある王も長くは続かないが、神様の国はいつまでも続く。
- ③バビロンの国は、永遠に続く。

4. ダニエルは、どうして夢の意味を知ることができたのでしょうか。

[ ]



5. どんなに力のある王も、長くはつづきません。あなたは今、心配していることはありませんか。永遠に力をもつ神様に信頼しませんか。

[ ]

いの  
お祈り



神様、ダニエルを助けてくださったあなたを信じます。人をおそれず、神様  
だけをおそれます。・・・アーメン。

1. ことば か おほ  
み言葉を書いて覚えましょう。

ダニエル 3・17

2. ネブカデネザル王は、なぜダニエルの友人の三人をおこったのでしょうか。

- ①朝起きられなかったから。
- ②金の像をばかにしたから。
- ③金の像をおがまなかったから。



3. 三人がそのようにしたのは、なぜでしょう。( )に入る言葉を下から選びましょう。

金の像を [ ] のは、[ ] から。

ほめる 見る おがむ  
かわるい 罪だと知っていた つまらない

4. 王が三人を燃える炉の中になげこむぞとおどかしたとき、彼らは何を  
考えていましたか。○をしよう。

- ①熱いところは大好きだ。
- ②神様は火の中からも救うことができる。何があっても神様を信頼しよう。
- ③あとで仕返しをしよう。



5. 神様は三人を助けてくださいましたが、彼らは「たといそうでなくても」  
神様に信頼すると言いました。あなたも神様に信頼していますか。

[ ]

いの  
お祈り



神様、シャデラク、メシャク、アベデネゴの三人を助けてくださってありがとうございます。神様はわたしのことも守ってくださいます。どんなときでも、神様だけに信頼します。・・・アーメン。

1、今日の<sup>こゝろは</sup>み<sup>が</sup>言葉<sup>めいば</sup>を書いて覚えましょう。

マラキ 3・10

2. マラキさんの時代の人々はどんなだったでしょう？正しい文に○をつけましょう。

- ① (      ) 神様をおそれ 敬 う正しい人々ばかりだった
- ② (      ) 神様に仕える祭司までが、神様をバカにして病気の動物をささげた。
- ③ (      ) 飢饉で人々が苦しんで、神様への献げ物をへらした。

**3、** どうして<sup>けんきん</sup>献金<sup>ささ</sup>(<sup>もの</sup>献<sup>げ</sup>物)をするのでしょうか？正しいと思うものに○をつけましょう。

- ① (     ) 献金をしないと神様が困るから  
けんきん                  かみさま      こま
- ② (     ) 献金をすれば神様からのいいことがあるので、保険のようなもの  
けんきん                  かみさま                                  ほけん
- ③ (     ) わたしたちに必要なものを与えてくださっている神様への感謝  
                                ひつよう                  あた                  かみさま          かんしゃ
- ④ (     ) 神様に仕える人や、教会の働きのために使っていただくため  
かみさま    つか                  きょうかい    はたら                  つか
- ⑤ (     ) イエス様を与えてくださった神様にわたしたちの愛をあらわすため  
                                さま    あた                  かみさま                  あい

4、<sup>けんきん</sup>献金をする時、<sup>かみさま</sup>神様に<sup>よろこ</sup>喜ばれる<sup>こころ</sup>心はどちらの<sup>こころ</sup>心でしょう？○をつけましょう。

- (1) ① ( ) A君「ま、神様にあげるれるのは1円くらいでしょ。」  
           ② ( ) Bさん「今月のこずかい少なくなるけど…、でも、ささげます！」
- (2) ① ( ) A君「神様にささげたらマチガイない！ささげます！」  
           ② ( ) Bさん「あー、ほしい物あるんだよねえ、半分だけ、献金。」
- (3) ① ( ) A君「ラッキー！1万円ゲット！じゃあ、10円くらい、献金。」  
           ② ( ) Bさん「神様、今、お金はありません。でも神様を愛しています。」

☆ <sup>かみさま</sup>神様が<sup>こころ</sup>見ておられるのは、わたしたちの<sup>みこ</sup>心です。<sup>さま</sup>御子イエス様を<sup>あい</sup>くださるほど、<sup>まも</sup>わたしたちを<sup>かみさま</sup>愛し、<sup>あい</sup>守って<sup>しん</sup>くださる神様を<sup>あい</sup>愛し、<sup>しん</sup>信じていきましょう。

- ③ かみさま よ よろこ  
神様、いつも良いものでわたしたちを喜ばせてくだ  
さって感謝します。わたしも、わたしの持っている中  
かんしゃ も なか  
で一番良いささげものを、神様にささげます。イエス  
いちばん よ かみさま  
様のお名前によってお祈りします。アーメン。  
さま なまえ いの

★ かみさま あい ひと  
神様を愛する人を  
かみさま  
神様はますます  
しゅくふく  
祝福されます！





1、イザヤさんが<sup>よげん</sup>預言した今日の<sup>きょう</sup>み<sup>ことば</sup>言葉を書いて覚えましょう。

イザヤ 9・6

2、「ひとりのみどりご」とはだれのことですか？下の文字の中から「ひとりのみどりご」という文字をえらんでぬりつぶしてみよう。だれの名前がでてくるでしょう？

☆	さ	ひ	ね	☆	ぶ	と	ひ	ご	み	☆	か	☆	ま	す	☆
そ	と	る	み	り	と	☆	て	り	☆	れ	ど	こ	な	☆	つ
ひ	の	☆	こ	ど	☆	う	ど	の	い	て	☆	さ	☆	し	☆
☆	ど	せ	ひ	ご	の	の	☆	や	ひ	は	よ	☆	し	る	こ
た	☆	た	ふ	て	☆	ま	ふ	☆	ゆ	☆	き	じ	き	☆	し
め	ぬ	み	☆	☆	と	ぼ	み	き	と	ひ	ご	み	☆	と	む
☆	り	ひ	ど	そ	ひ	☆	ご	☆	う	☆	り	☆	ば	み	☆
ぶ	☆	り	し	☆	と	き	り	く	☆	ど	の	へ	☆	ご	り
て	ご	み	と	ろ	☆	☆	と	い	の	☆	な	ひ	も	の	わ
☆	を	の	☆	え	ち	の	☆	☆	や	き	☆	ぺ	う	ひ	☆

3、イエス様の4つの名前<sup>なまえ</sup>はどんな意味<sup>いみ</sup>だと思<sup>おも</sup>いますか？下からえらんでみましょう。

① 霊<sup>れいみょう</sup> 妙<sup>ぎし</sup>なる議士<sup>ふしぎ</sup> (不思議<sup>じよげんしゃ</sup>な助言者) →

② 大能<sup>たいのう</sup>の(力<sup>かみ</sup>ある)神 →

③ とこしえ<sup>えいえん</sup> (永遠<sup>えいえん</sup>の) 父 →

④ 平和<sup>へいわ</sup>の君<sup>きみ</sup> →

ア) わたしがどんなにイヤな人間<sup>にんげん</sup>でもわたしを愛<sup>あい</sup>してくださる変<sup>か</sup>わらないお父さん  
 イ) とても大<sup>たいへん</sup> 変<sup>お</sup>なことが起<sup>たす</sup>こっても、助<sup>ちからづよ</sup>けてくださる力<sup>かみさま</sup> 強<sup>かた</sup>い神様  
 ウ) こまった時<sup>ふしぎ</sup>、不思議<sup>ちえ</sup>な知恵<sup>ちえ</sup>と力をあたえて、みちびいてくださる、たよれるお方  
 エ) わたしの罪<sup>つみ</sup>をゆるし、神<sup>かみさま</sup> 様<sup>かえ</sup>のもとへ帰<sup>へいわ</sup>してくださった平和<sup>はし</sup>のかけ橋

4、もしあなたが次のようなピンチになった時、上の①～④の中からどのようなイエス様のお名前<sup>なまえ</sup>を思<sup>おも</sup>いだしたらよいでしょう？下の<sup>ばんごう</sup>に①～④の番号をいれましょう。

1) あしたはマラソン大会。できることなら休<sup>やす</sup>みたい。こんな時・・・ →

2) 1ヶ月<sup>げつ</sup>の入<sup>にゅういん</sup> 院<sup>がっこう</sup>。学校<sup>べんきょう</sup>にもどると勉<sup>べんきょう</sup> 強<sup>べんきょう</sup> についてけな<sup>べんきょう</sup>い！どうしたら？ →

3) 何もしてないのにおねえちゃん<sup>い</sup>がなぐった。怒<sup>い</sup>りバクハツ寸<sup>すんぜん</sup>前<sup>すんぜん</sup>！ →

4) 友<sup>ともだち</sup> 達<sup>まんび</sup>にさそわれて万<sup>きょうかい</sup> 引<sup>い</sup>きをしてしまった。もう教<sup>きょうかい</sup> 会<sup>い</sup>に行<sup>き</sup>けな<sup>い</sup>いよ・・・ →

③ 神<sup>かみさま</sup> 様<sup>よわ</sup>、弱<sup>つみ</sup>くて、罪<sup>つみ</sup>ぶかいわたしの心<sup>こころ</sup>に、イエス様<sup>さま</sup>をおく<sup>さ</sup>ってくださり、かんしゃします。イエス様<sup>さま</sup>のお名前<sup>なまえ</sup>によってお祈<sup>いの</sup>りします。アーメン。



★イエス様<sup>さま</sup>は、すぐ<sup>くら</sup>に暗<sup>くら</sup>くなるわたしの心<sup>こころ</sup>をてらしてくださる光<sup>ひかり</sup>です！

1、今日の<sup>きょう</sup>み<sup>ことば</sup>言<sup>か</sup>葉<sup>おぼ</sup>を書いて覚えましょう。

ルカ 2・6～7

2、今日のお話に出てきた<sup>こうてい</sup>皇帝<sup>すく めし</sup>アウグストと救い主イエス・キリスト。それぞれに  
関係するものを線でむすびましょう。

<sup>じんこうちょうさ</sup> <sup>じゅうみんどうろく</sup>  
人口調査(住民登録)

かいばおけ

<sup>じゅうじか</sup>  
十字架


ベツレヘム村


<sup>ぬの</sup>  
布

<sup>ていこく</sup>  
ローマ帝国

<sup>ちよくれい</sup> <sup>めいれい</sup>  
勅令(命令)

<sup>こや</sup>  
かちく小屋

<sup>こうてい</sup>  
**皇帝アウグスト**  


<sup>すく めし</sup>  
**救い主**  
**イエス・キリスト**  


3、イエス様<sup>さま</sup>が入ることのできる心は、  
どこのドアでしょう？

あ～あ、また  
クリスマス  
かー、いそが  
し、いそが  
し。

クリスマスに  
は、ぜったい  
ケーキ買って  
ネ！

クリスマスな  
んだから、む  
つかしいこと  
言わないで、  
ま、パーッと  
いきましょ！

イエス様<sup>さま</sup>、  
きたな  
こんな汚い心  
ですが、どう  
ぞきれいにし  
てください。

③ イエス様<sup>さま</sup>、今までイエス様<sup>さま</sup>をおい出していたわたしをおゆるし  
ください。どうぞ、この心に入り、おきよめください。  
イエス様<sup>さま</sup>のお名前<sup>なまえ</sup>によってお祈り<sup>いの</sup>します。アーメン。



★ <sup>こころ</sup> <sup>ひく</sup>心を低くする人の  
ドアからイエス様<sup>さま</sup>は  
入ってくださいます！

1、今日の<sup>きょう</sup>のみ<sup>ことば</sup>言葉<sup>か</sup>を書いて覚え<sup>おぼ</sup>ましょう。

ルカ 2・14

2、今日のお話を思い出して、次の<sup>しつもん</sup>質問<sup>こた</sup>に答え<sup>こた</sup>ましょう。正しい方に○をつけましょう。

①羊飼<sup>ひつじか</sup>いたちは、町<sup>のほら</sup>はずれの野原<sup>ひつじ</sup>で（あさ・夜<sup>ばん</sup>）に羊の番<sup>ばん</sup>をしていました。

②とつぜん、<sup>てんし</sup>（天使<sup>てんし</sup>が・けいさつ<sup>が</sup>）あらわれて、まぶしい光<sup>ひかり</sup>でてらしました。

羊飼<sup>ひつじか</sup>いたちは（よろこびおどりました・おそれてふるえました）。

天使<sup>てんし</sup>は「きょう、あなたがたのために救い主<sup>すくぬし</sup>が生まれ<sup>うま</sup>ました！」と知らせ<sup>し</sup>しました。

③すると、おおぜいの<sup>きょうかい</sup>（教会<sup>せいかたい</sup>の聖歌隊<sup>てんし</sup>が・天使<sup>てんし</sup>たちが）あらわれ、大合唱<sup>だいがっしょう</sup>がはじまりました。

「神<sup>かみ</sup>に栄光<sup>えいこう</sup>あれ！地<sup>ち</sup>に平和<sup>へいわ</sup>あれ！」

羊飼<sup>ひつじか</sup>いたちは（腰<sup>こし</sup>をぬかしながら・すぐ<sup>た</sup>に立ちあがって）でかけました。

④天使<sup>てんし</sup>の言<sup>こと</sup>ったとおりにイエス様<sup>さま</sup>を見つ<sup>み</sup>けた羊飼<sup>ひつじか</sup>いたちはイエス様<sup>さま</sup>を礼拝<sup>らいはい</sup>しました。そして、

（こそこそと出て行<sup>い</sup>きました・人々<sup>ひとびと</sup>に天使<sup>てんし</sup>の知らせ<sup>し</sup>をつたえました）。

⑤羊飼<sup>ひつじか</sup>いたちは、「神様<sup>かみさま</sup>はすばらしい！」と、神様<sup>かみさま</sup>を賛美<sup>さんび</sup>して帰<sup>かえ</sup>っていきました。

3、次の<sup>しつもん</sup>質問<sup>かんが</sup>を考<sup>かんが</sup>えてみましょう。

1) 今年<sup>ことし</sup>もいろいろな事<sup>こと</sup>があつたことでしょうか。悲<sup>かな</sup>しかったこと、つらかつたことがありましたか？

（ あつた ・ いいことばかりだった ）

2) まわりの家族<sup>かぞく</sup>にやさしくしてあげられましたか？ 友達<sup>ともだち</sup>と仲よくできましたか？

神様<sup>かみさま</sup>にはどうでしたか？（かんぺき・できなかった・あまり気にしない）

☆ イエス様<sup>イエスさま</sup>は、暗<sup>くら</sup>くてさみしい、愛<sup>あい</sup>のない、わたしたちの中に愛<sup>あい</sup>の心<sup>こころ</sup>を与<sup>あた</sup>えるために、十字架<sup>じゅうじか</sup>にかかって死<sup>し</sup>んでくださいました。この良<sup>よ</sup>い知らせ<sup>し</sup>を信<sup>しん</sup>じて、イエス様<sup>イエスさま</sup>に「ごめんなさい」とおわびしてゆるしていただきましょう。そして、イエス様<sup>イエスさま</sup>の愛<sup>あい</sup>を知<sup>し</sup>りましょう。

神様<sup>かみさま</sup>は、憎<sup>にく</sup>しみや悲<sup>かな</sup>しみを賛美<sup>さんび</sup>に変<sup>か</sup>えてくださるお方<sup>かた</sup>です！

3) あなたの好<sup>す</sup>きな賛美<sup>さんび</sup>歌<sup>か</sup>を書<sup>か</sup>きましょう。（♪）



★ <sup>かみさま</sup>神様<sup>つみ</sup>に罪<sup>つみ</sup>をゆるされた人<sup>ひと</sup>が、本当<sup>ほんとう</sup>の賛美<sup>さんび</sup>をささげることができます。



<sup>かみさま</sup>神様<sup>かみさま</sup>、わたしの心<sup>こころ</sup>にさんびをあたえてください。

<sup>イエスさま</sup>イエス様<sup>イエスさま</sup>のお名前<sup>なまえ</sup>によってお祈<sup>いの</sup>りします。アーメン。

1、み言葉を書いて覚えましょう。

マタイ 2・11

2、今日のお話を思い出して、次の質問に答えましょう。正しい方に○をつけましょう。

- 1) 東の方からきた博士たちは、どうしてエルサレムにやってきたのですか？  
 ア) ヘロデ王と友達だったから イ) 世界的な新しい王を祝いたかったから
- 2) ヘロデ王はどうしてキリストの生まれる場所を知りたかったのでしょうか？  
 ア) ライバルを消そうと思ったから イ) 自分もお祝いするべきと思ったから
- 3) 学者たちはどうしてイエス様を拝みに行かなかったのでしょうか？  
 ア) きょうみがなかったから イ) 自分などが会うのは恐れおおいと思ったから
- 4) 博士たちが礼拝をささげたイエス様はどのような様子だったと思いますか？  
 ア) ぶつうの赤ちゃん イ) 特別かしこそうな赤ちゃん

3、博士たちのささげものは何でしたか？それぞれの意味に合う所を書きましょう。

(ア)

おう

…王にふさわしい

…祭司にふさわしい

イ

(ウ)

ししゃ

…死者にふさわしい

☆どうして死者にふさわしいものをささげものにしたのでしょうか？

☆ イエス様はご自分の命を与えてわたしを救ってくださった救い主。このお方がわたしを愛し、わたしにとってもっとも良い、まことの王様なのですね。

4、このお方に、わたしは何をささげましょうか？ ( )

③ かみさま はかせ  
 神様、博士たちのようにわたしもあなたへの愛をあらわします。イエス様のお名前によってお祈ります。アーメン。



★ かみさま あい  
 神様を愛することが最高のささげもの、クリスマスプレゼントですね

1、<sup>ことば</sup>み<sup>か</sup>言<sup>おぼ</sup>葉を書<sup>か</sup>いて覚<sup>おぼ</sup>えま<sup>し</sup>よう。

I テサロニケ 5・18

2、今日は<sup>こと</sup>今<sup>し</sup>年<sup>さい</sup>最<sup>ご</sup>後<sup>れい</sup>の<sup>はい</sup>礼<sup>かみ</sup>拝<sup>さま</sup>です。神<sup>い</sup>様<sup>ち</sup>に一<sup>いち</sup>年<sup>ねん</sup>間<sup>かん</sup>の<sup>めぐ</sup>恵<sup>かみ</sup>み<sup>さ</sup>を<sup>かん</sup>感<sup>しゃ</sup>謝<sup>しゃ</sup>しま<sup>し</sup>よう。

でも、<sup>かん</sup>こ<sup>ん</sup>な<sup>しゃ</sup>こ<sup>と</sup>、あ<sup>り</sup>ま<sup>せ</sup>ん<sup>で</sup>し<sup>た</sup>か？ そ<sup>の</sup>時<sup>かん</sup>、感<sup>しゃ</sup>謝<sup>しゃ</sup>で<sup>き</sup>ま<sup>し</sup>た<sup>か</sup>？

- 1) <sup>おとな</sup>大<sup>かん</sup>人<sup>しゃ</sup>の<sup>し</sup>人<sup>に</sup>に<sup>し</sup>か<sup>ら</sup>れ<sup>た</sup>時<sup>かん</sup> (◎感<sup>しゃ</sup>謝<sup>しゃ</sup>で<sup>き</sup>た ○少<sup>し</sup> △あ<sup>ま</sup>り ×ぜ<sup>ん</sup>ぜ<sup>ん</sup>)
- 2) <sup>しごと</sup>め<sup>ん</sup>ど<sup>く</sup>さい<sup>はら</sup>仕<sup>はら</sup>事<sup>を</sup>を<sup>に</sup>げ<sup>る</sup>人<sup>を</sup>を<sup>見</sup>て、<sup>はら</sup>腹<sup>が</sup>た<sup>た</sup>つ<sup>た</sup>時<sup>かん</sup> (◎ ○ △ ×)
- 3) <sup>しんぱいしょう</sup>心<sup>し</sup>配<sup>し</sup>性<sup>が</sup>の<sup>い</sup>人<sup>が</sup>いて、<sup>しごと</sup>い<sup>っ</sup>し<sup>ょ</sup>の<sup>し</sup>仕<sup>ごと</sup>事<sup>が</sup>や<sup>り</sup>に<sup>く</sup>か<sup>つ</sup>た<sup>時</sup> (◎ ○ △ ×)
- 4) <sup>かげ</sup>陰<sup>で</sup>、<sup>もんく</sup>文<sup>を</sup>句<sup>を</sup>を<sup>言</sup>わ<sup>れ</sup>て<sup>い</sup>た<sup>こ</sup>と<sup>を</sup>知<sup>つ</sup>た<sup>時</sup> (◎ ○ △ ×)
- 5) <sup>じぶん</sup>なん<sup>で</sup>も、自<sup>じ</sup>分<sup>の</sup>の<sup>や</sup>り<sup>たい</sup>よう<sup>に</sup>に<sup>や</sup>る<sup>人</sup>が<sup>い</sup>た<sup>時</sup> (◎ ○ △ ×)

3、「『<sup>かん</sup>す<sup>べ</sup>て』、感<sup>しゃ</sup>謝<sup>しゃ</sup>する<sup>の</sup>は<sup>ム</sup>リ！」だ<sup>と</sup>思<sup>い</sup>ま<sup>す</sup>よ<sup>ね</sup>。そ<sup>の</sup>ひ<sup>み</sup>つ<sup>は</sup>「キ<sup>り</sup>ス<sup>と</sup>に<sup>あ</sup>つ<sup>て</sup>」。ど<sup>う</sup>い<sup>う</sup>意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>で<sup>し</sup>ょう？あ<sup>て</sup>は<sup>ま</sup>る<sup>と</sup>思<sup>う</sup>も<sup>の</sup>全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>に○を<sup>つ</sup>け<sup>ま</sup>し<sup>ょう</sup>。

- ア) ( ) 「<sup>さま</sup>イエ<sup>す</sup>様<sup>に</sup>に<sup>ゆる</sup>さ<sup>れ</sup>て、<sup>じぶん</sup>今<sup>の</sup>自<sup>が</sup>分<sup>が</sup>い<sup>る</sup>」こ<sup>と</sup>を<sup>知</sup>る。
- イ) ( ) 「<sup>さま</sup>イエ<sup>す</sup>様<sup>だ</sup>つ<sup>たら</sup>、<sup>この</sup>人<sup>に</sup>に<sup>どう</sup>す<sup>る</sup>か<sup>な</sup>」と<sup>考</sup>え<sup>る</sup>。
- ウ) ( ) <sup>せいしょ</sup>聖<sup>よ</sup>書<sup>を</sup>を<sup>よ</sup>み、<sup>いの</sup>お<sup>の</sup>祈<sup>り</sup>す<sup>る</sup>中<sup>で</sup>、<sup>さま</sup>イエ<sup>す</sup>様<sup>か</sup>ら<sup>力</sup>を<sup>い</sup>た<sup>だ</sup>く。
- エ) ( ) <sup>さま</sup>イエ<sup>す</sup>様<sup>の</sup>よう<sup>に</sup>に<sup>あら</sup>荒<sup>の</sup>野<sup>に</sup>に<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>み<sup>る</sup>。
- オ) ( ) <sup>さま</sup>イエ<sup>す</sup>様<sup>の</sup>よう<sup>に</sup>に<sup>だい</sup>大<sup>く</sup>工<sup>の</sup>の<sup>し</sup>仕<sup>ごと</sup>事<sup>を</sup>を<sup>や</sup>っ<sup>て</sup>み<sup>る</sup>。

4、「<sup>かん</sup>す<sup>べ</sup>て<sup>かん</sup>感<sup>しゃ</sup>謝<sup>しゃ</sup>」する<sup>に</sup>は、「<sup>かみ</sup>神<sup>さま</sup>様<sup>は</sup>、<sup>あと</sup>後<sup>で</sup>に<sup>かな</sup>ら<sup>ず</sup>良<sup>い</sup>よう<sup>に</sup>に<sup>か</sup>え<sup>て</sup>く<sup>だ</sup>さ<sup>る</sup>」と<sup>しん</sup>信<sup>じ</sup>じ<sup>る</sup>こ<sup>と</sup>か<sup>ら</sup>始<sup>は</sup>ま<sup>り</sup>ま<sup>す</sup>。み<sup>な</sup>さ<sup>ん</sup>の<sup>こと</sup>今<sup>し</sup>年<sup>い</sup>、<sup>いや</sup>嫌<sup>だ</sup>つ<sup>た</sup>こ<sup>と</sup>を<sup>書</sup>い<sup>て</sup>み<sup>ま</sup>し<sup>ょう</sup>。

↑<sup>かみ</sup>そ<sup>の</sup>こ<sup>と</sup>も、<sup>しん</sup>神<sup>かん</sup>様<sup>を</sup>を<sup>しん</sup>信<sup>じ</sup>て<sup>かん</sup>感<sup>しゃ</sup>謝<sup>しゃ</sup>し<sup>て</sup>み<sup>ま</sup>し<sup>ょう</sup>。<sup>かみ</sup>神<sup>さま</sup>様<sup>は</sup>、<sup>あと</sup>後<sup>で</sup>「<sup>よ</sup>良<sup>か</sup>つ<sup>た</sup>」と<sup>おし</sup>教<sup>え</sup>て<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>い<sup>ま</sup>す。

③ <sup>かみ</sup>神<sup>さま</sup>様<sup>、</sup>す<sup>べ</sup>て<sup>を</sup>を<sup>良</sup>い<sup>よう</sup>に<sup>に</sup>か<sup>え</sup>て<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>る<sup>かみ</sup>神<sup>さま</sup>様<sup>を</sup>  
<sup>しん</sup>信<sup>じ</sup>て、<sup>かん</sup>す<sup>べ</sup>て<sup>の</sup>こ<sup>と</sup>を<sup>かん</sup>感<sup>しゃ</sup>謝<sup>しゃ</sup>し<sup>ま</sup>す。<sup>さま</sup>イエ<sup>す</sup>様<sup>の</sup>  
<sup>なまえ</sup>お<sup>な</sup>前<sup>によ</sup>つ<sup>て</sup>お<sup>の</sup>祈<sup>り</sup>し<sup>ま</sup>す。ア<sup>ー</sup>メ<sup>ン</sup>。



★<sup>あた</sup>新<sup>ら</sup>しい<sup>も</sup>年<sup>も</sup>  
<sup>かみ</sup>神<sup>さま</sup>様<sup>を</sup>を<sup>しん</sup>信<sup>じ</sup>て、<sup>し</sup>し<sup>た</sup>が<sup>つ</sup>て<sup>い</sup>き<sup>ま</sup>し<sup>ょう</sup>！

## 2009年度 牧羊者 第Ⅲ巻

# ワークC解説 10~12月

(10/4~11/15小泉創、11/22~12/27田代美雪)

10/4

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、②、④。
- 第3問 答えは、②。
- 第4問 答えは、③。

エリヤから「してほしいことを求めなさい」と言われて、エリシャは迷わず「霊の二つの分を」と、神様の働きをしていくために必要なことを求めました。

- 第5問 解答例は、「エリヤの<sup>がいたう</sup>外套でヨルダン川の水を分けた」。

これ以降、エリシャは確かにエリヤのあらわしたような奇跡をなしていきます。それは主の霊が、エリシャに注がれた証であったでしょう。

- 第6問 答えは、自由に記してください。神様に喜ばれる生活を送るためにも、聖霊の助けが必要です。一緒に祈りましょう。

10/11

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、①、②。

イザヤ自身、罪をゆるされた者であったから、預言者としての働きを進めていくことができました。

- 第3問 答えは、①、③、⑤。
- 第4問 答えは、「イエス」。

「イザヤやクロス王を指しつつも、究極的にはイエス・キリストを指し示す」(研究資料参照)。

- 第5問 答えは、自由に記してください。子どもたちの生涯は、神様の愛をあらわすためにあるということを考えて欲しいと思います。

10/18

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、「いつも」、「聞こうとしなかった」、「高ぶり」。

神様は真実の限りを尽くしてこられたのに、人間は不真実な対応をとってきました。

- 第3問 答えは、③。

目に見えるもので形をとりつくろうとする誘惑はありますが、神様の求めておられることは私たちの本当の心のあり方です。

- 第4問 答えは、③。

子どもたちにとって信仰生活の形をなぞることは、難しいことではないかもしれません。しかしその心が早いうちから神様の御前にあるということが最も大切なことでしょう。

10/25

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、②。
- 第3問 答えは、①。

人の願いと神の計画は違います。いつでも感謝して容易に受け取れるとは限りません。

- 第4問 答えは、「人々が悔い改めて、神様のところに帰って来ること」。

悔い改めずに、故郷に帰ったとしても、何の解決にもなりません。本当の意味で、神様のところに帰れたときに、約束の地にも帰ることができます(研究資料参照)。

- 第5問 答えは、「神様のご計画のとおり」。

心から、神様のご計画にゆだねる幸いを、子どもたちが経験していくことができるように祈りましょう。

11/1

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、「水」「川」「豊かに」「死海」。
- 第3問 答えは、②。
- 第4問 答えは、③。

不思議な幻の意味は、いのちにあふれた聖霊の力です。

- 第5問 答えは、③。

弱っていたり、疲れていたたりする子がいるかもしれません。聖霊がその魂にも触れてくださり、生かして下さいますように。

11/8

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、①、④、⑤。
- 第3問 答えは、②。

王をもおそれず、神からのメッセージをまっすぐに語るダニエルの姿に教えられます。

- 第4問 答えは、「神様に祈ったから」。

ダニエル書2・18～19。ダニエルは知恵や知識によるのではなく、神様に信頼して助けを求めています。

- 第5問 素直な言葉が聞ければ幸いです。

どのような王も自分で立っているではありません。どのような試練も困難もいつまでも続きません。神様は必ず子どもたちを守って下さいます。そして永遠に続いた一つのものの、神の国へと招いて下さっています。

11/15

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、③。
- 第3問 答えは、「おがむ」、「罪だと知っていた」。異国にあって、彼らもダニエル同様、唯一の神だけを畏れる人物でした。

- 第4問 答えは、②。

やせがまんでもなく、憎しみを抱くのもなく、ただ神にのみ目を向けて信頼していた三人の姿に教えられます。

- 第5問 素直な言葉が聞ければ幸いです。

神様がどのようにして下さるかは、人にはわかりません。守りを期待しますが、時にもっと違う道を通されるかも知れません。「たといそうでなくても」という、完全に神様に任せきっている信仰を、子どもたちも私たちも共に貫きたいものです。

11/22

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、②と③。  
神の裁きと祝福の原則を学びましょう。
- 第3問 答えは、③、④、⑤。  
献金の意味を考えましょう。

- 第4問 答えは、(1) ②、(2) ①、(3) ②。  
神様が喜ばれるささげものはその心です。

11/29

- 第1問 暗唱聖句を書き入れます。
- 第2問 答えは、以下のとおりです。イザヤの預言はイエス・キリストについての預言です。

☆	さ		ね	☆	ぶ			☆	か	☆	ま	す	☆
そ		る			☆	て		☆	れ		こ	な	☆
		☆	こ		☆	う		い	て	☆	さ	☆	し
☆		せ				☆	や		は	よ	☆	し	こ
た	☆	た	ふ	て	☆	ま	ふ	☆	ゆ	☆	き	じ	☆
め	ぬ		☆	☆		ぼ		☆	き			☆	む
☆				そ		☆		☆	う	☆		☆	ば
ぶ	☆		し	☆		き		く	☆		へ	☆	
て				ろ	☆	☆		い		☆	な		わ
☆	を		☆	え	ち		☆	☆	や	き	☆	べ	う

- 第3問 答えは、①ウ) ②イ) ③ア) ④エ)。

主イエスの四つの名前と意味を学びましょう。

- 第4問 解答例は、1) ②、2) ①、3) ④、4) ③。その他の答えでも可能です。

12/6

●第1問 暗唱聖句を書き入れます。

●第2問 皇帝アウグストとキリストの違いを学びましょう。

答えは、

「皇帝アウグスト」…人口調査、勅令、ローマ帝国。

「救い主イエス・キリスト」…十字架、かいばおけ、ベツレヘム村、布、かちく小屋

●第3問 答えは、右下のドア。

「客間に余地がなかった」。わたしたちの心はどうでしょうか？

12/13

●第1問 暗唱聖句を書き入れます。

●第2問 答えは、①夜、②天使がおそれてふるえました、③天使たちがすぐに立ちあがって、

④人々に天使の知らせをつたえました。

暗い夜と羊飼いの暗い心、そして、明るい天使の知らせと輝く栄光、賛美する羊飼いたちという対比をきわだたせましょう。

●第3問 答えは自由に。どんなことがあったか話し合ってみましょう。

悲しみ・嘆きが賛美に変わることを学びましょう。

12/20

●第1問 暗唱聖句を書き入れます。

●第2問 答えは、1) イ)、2) ア)、3) ア)、4) ア)。

救い主キリストの誕生を囲む、1) 礼拝者としての博士たち、2) 憎悪の念のヘロデ、3) 無関心の学者群という3種の人を学びたい。

●第3問 答えは、ア) 黄金 イ) 乳香 ウ) 没薬。

キリストは死んで、命を与えるため来られたことを学びましょう。

12/27

●第1問 暗唱聖句を書き入れます。

●第2問 答えは、各自、自由に○をし、話し合ひましょう。

I テサロニケ5章にあるような、教会の不和をもたらす原因を知り、それぞれの人に「寛容」でありたいと思います。

●第3問 答えは、ア)、イ)、ウ)。

「キリストにあって」の意味を学びましょう。

●第4問 嫌なことも、神様の御手の中で良いように造り変えてくださると信じ、感謝してみましょう。